

# 令和4年度研究推進計画

廿日市市立阿品台東小学校

学校教育目標

夢や目標に向かい 自らを伸ばす

## 1 研究主題

「自ら学びたくなる教育活動の創造」（3校共通研究主題）

～ICTの効果的な活用による思考力、判断力、表現力の育成～

## 2 研究主題設定の理由

昨年度、研究主題を「自ら学びたくなる教育活動の創造～ICTの効果的な活用による思考力、判断力、表現力の育成～」とし、「算数科」の授業づくりを中心に研究を行ってきた。「学力が向上したか」「ICTを効果的に活用した授業実践ができたか」「児童はICTの活用によって、学習に意欲的になっているか」という3つの検証の視点をもって取り組んできた。

「学力が向上したか」については、標準学力調査算数科・国語科の結果（表1）から、第1学年では、例年と大きく変化はないが、第2学年以上では、全ての学年で昨年度を下回っている。全国平均より15ポイント以上下回っている児童の割合（表2）をみても、第3学年から第5学年では、大きく増加しており、課題のある児童が増加傾向にあるといえる。また、これらの児童の多くは、「思考・表現・判断」の領域の正答率が低く、全国平均から30ポイント前後下回っており、思考力、表現力、判断力の育成が必要であることは、明らかである。

次に「ICTを効果的に活用した授業実践ができたか」については、ICTプロジェクトチームを中心に実践を積み上げ、全教員が実践事例を残すことができた。また、実践事例の交流やアプリの活用方法に関する研修、オンライン授業やタブレットを活用した家庭学習の実施などを着実に進めたことにより、全教員が日常的にあらゆる学習活動の中で活用できるようになった。研究授業の教職員のアンケート「本時の目標を達成することができないと予想される児童に対して、ICT等を活用した効果的な手立てを講じていた。」の項目で、肯定的な回答が100%であったことから、授業実践を推進できたことが分かる。

最後に、「児童はICTの活用によって、学習に意欲的になっているか」については、日頃の授業の様子から、ICTを活用することで、これまで学習に十分向かうことができなかった児童が、意欲的に学習する姿がみられるなど、児童の学習意欲にはよい影響があったことは明らかである。

表1

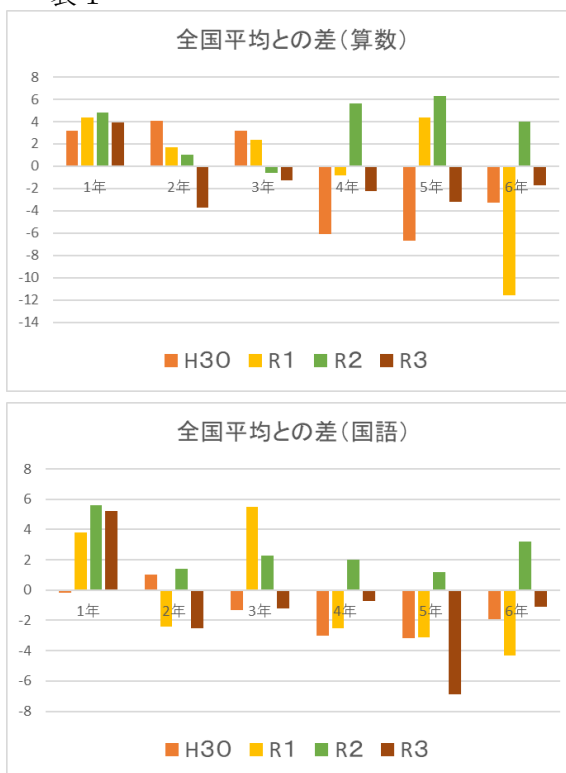


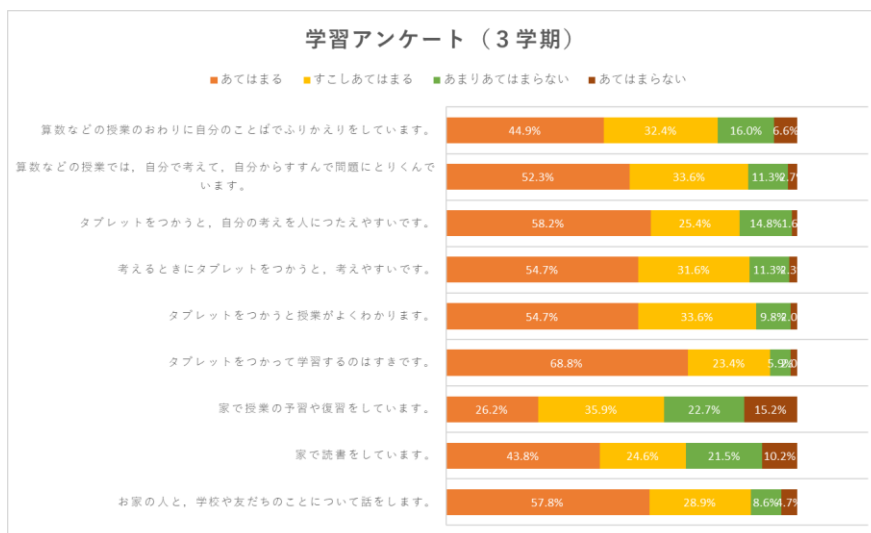
表2

平均正答率より15ポイント以上低い児童の割合（算数科）

	R1	R2	R3	昨年度との差
1年	13.2%	6.9%	8.0%	1.1%
2年	18.2%	24.2%	29.0%	4.8%
3年	17.9%	19.2%	31.7%	12.5%
4年	17.6%	17.8%	33.5%	15.7%
5年	18.4%	11.8%	31.8%	20.0%
6年	45.7%	23.7%	16.1%	-7.6%
平均値	21.8%	17.3%	25.0%	7.8%

また、児童アンケート「算数などの授業では、自分で考えて、自分からすすんで問題にとりこんでいます。」の項目で、肯定的な評価をした児童は、1学期末で88.7%、2学期末で79.9%、3学期末で85.9(表3)であった。タブレット活用に関する他の項目を見ても、どの項目でも肯定的評価が80%を超えており、ICTを効果的に活用することで、児童の学習意欲が向上したといえる。

表3

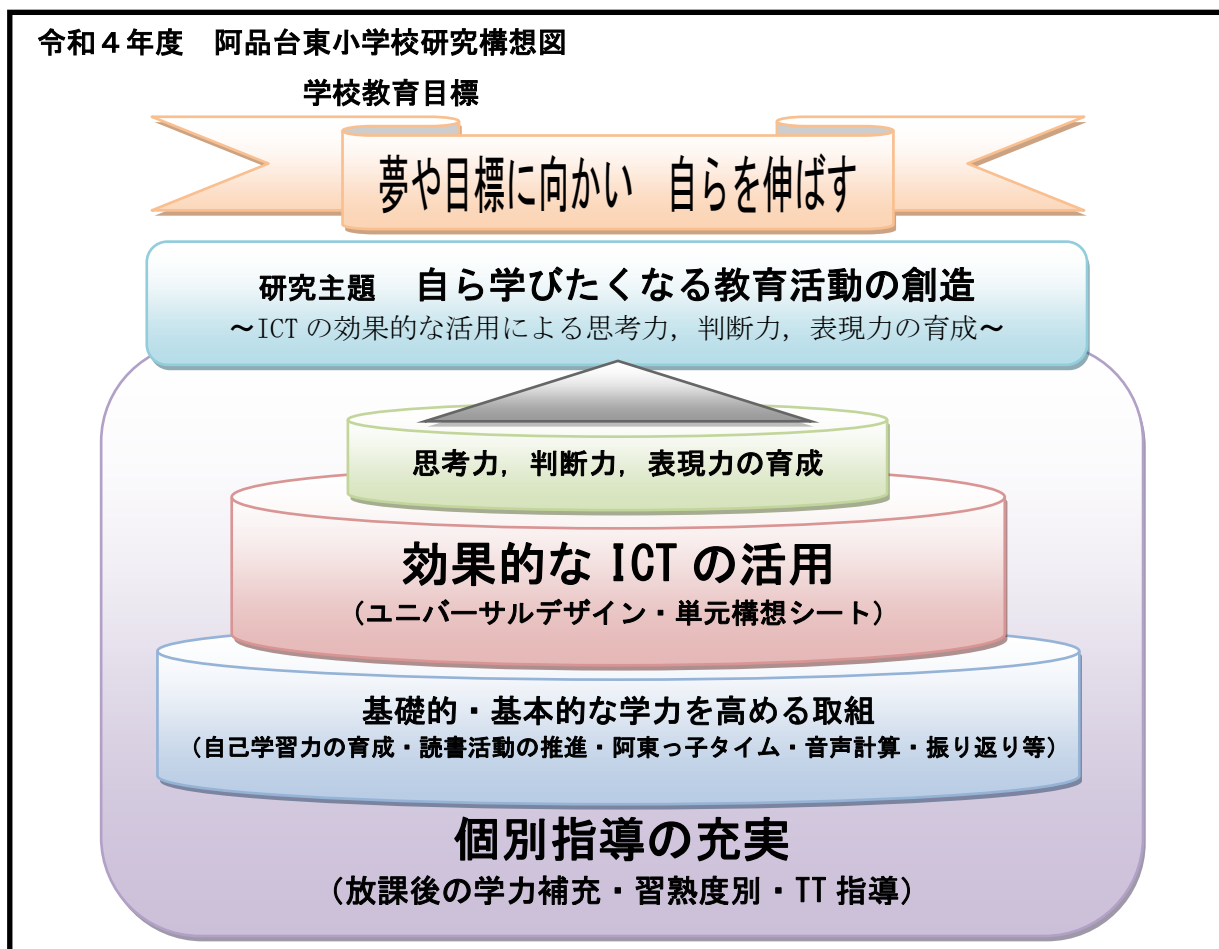


これらの結果から、ICTを効果的に活用する授業研究を行うことで、日頃の授業実践につながることができ、全校で日常的にICTを活用することができるようになった。また、ICTを活用することで児童の学習意欲を向上させ、自ら進んで学習に向かう児童の姿がみられるようになってきた。一方、学力テストの結果から、学力に課題のある児童が多く、特に思考力、表現力、判断力が十分身に付いていないことが明らかである。また、読み取る力や基礎的・基本的な学習の定着にもより一層の取組が必要である。そこで今後は、これまでの取組に加え、特に以下のような改善方策が必要であると考え。

- ICT機器を効果的に活用した「思考力・判断力・表現力」を高める実践事例の積み上げ
- 発達段階に応じた自己学習力の育成（家庭学習等の課題への取り組み方）
- 読書活動の推進（朝読書・読み聞かせ・読書活動推進員との連携による取組の強化）
- 単元構想シートの活用による「主体的・対話的で深い学び」へ向けた授業改善

以上のことから、今年度も引き続き、研究主題を「自ら学びたくなる教育活動の創造 ～ICTの効果的な活用による思考力、判断力、表現力の育成～」とし、ICTを効果的に活用することで、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むための取組を行う。その際、昨年度まで積み上げてきたユニバーサルデザインの視点を用いた授業づくりや、単元構想シートの活用による「主体的・対話的で深い学び」へ向けた授業改善を行う。また、朝タイムの取組、音声計算などは継続していくことで、基礎的・基本的な学力の定着を図る。更に、読書活動推進員との連携により読書活動を推進することで読み取る力を高めることや、家庭学習等の取組を通して、発達段階に応じた自己学習力の育成を行っていく。

### 3 研究構想図



### 4 研究仮説

各教科において、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、ICTを効果的に活用することで、課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等を育むことができるであろう。

### 5 研究の視点

- (1) ICTを活用した授業実践をし、児童の思考力，判断力，表現力を育成する上で効果的であったかを検証，改善し，実践事例を積み上げる。
- (2) 自己学習力の育成，読書活動の推進，朝の帯タイムの活用等を行うことで，基礎的・基本的な学力の向上を図る。
- (3) 放課後の学力補充・習熟度別・TT指導等の個別指導を充実させることで，児童の学習意欲を継続させ，学力の向上を目指す。

6 研究の内容

1	ICTを効果的に活用する取組	<p>○ICT 機器を効果的に活用した「思考力・判断力・表現力」を高める実践事例の積み上げ（教科問わず）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力，判断力，表現力の育成に効果的であったか評価・改善する。</li> <li>・実践事例として蓄積し，他の学年や教科へ普及させる。</li> </ul> <p>○単元構想シートの活用による「主体的・対話的で深い学び」へ向けた授業改善</p> <p>○学び合い，かかわり合う場の設定（ICT）</p> <p>○自分の考えを説明し合い，考えを深める場の設定（ICT）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団思考の場を設け，深い学びにする。</li> </ul>
2	児童のつまずきを解消するための取組	<p>○発達段階に応じた自己学習力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習への取り組み方を，学年に応じて体系化</li> <li>※家庭学習がんばり週間（中学校区共通）</li> <li>・タブレットドリルなどの学習支援アプリの活用</li> </ul> <p>○読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書など読書時間の確保</li> <li>・ボランティア等による読み聞かせ</li> <li>・読書活動推進員との連携による取組の強化（読書感想カード・ビブリオバトル・読書数ランキング 等）</li> </ul> <p>○学力の定着を図る朝の会と阿東っ子タイム（朝タイム）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な計算問題の習熟</li> <li>・読書タイム（読み聞かせ・子ども新聞（オンライン））</li> <li>・聞く姿勢や聞き取る力を高めるために「聞き耳タイム」を行う。</li> </ul> <p>○振り返りによる学習内容の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の終末に（毎時間・単元の終わり）に児童に視点を示して振り返りをさせることで，確かな学びにする。</li> </ul> <p>○「音声計算」による既習事項の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科を中心として，他教科でも授業始めに基礎・基本の定着を図るために「音声計算」を継続して実施する。</li> </ul> <p>○学習をしたことを共有し，実感できる「阿東っ子パワースポット」</p> <p>○ユニバーサルデザインの視点をういた授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ，つまずきの要因分析から具体的手立てを考える。</li> <li>・時間の構造化（授業の見通しを持たせる掲示「あひがし」）</li> <li>・場の構造化（教室環境の整備）</li> <li>・ルールの明確化（発表の仕方，話の聞き方）</li> </ul>
3	個別指導の充実	<p>○1～3 学年を中心とした放課後の時間を活用した学力補充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学習に取り組むことができるよう，学習内容を自己決定させたり，振り返りをさせたりする。指導者が児童の振り返りをもとに評価する。</li> </ul> <p>○習熟度別，TT 指導によるフォローアップ体制</p>
4	その他の取組	<p>○学習規律の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドブック「学問のすすめ」を使って，学習準備，机上整理，授業始めのあいさつ，聞く姿勢，について全学年でそろえた指導を行う。</li> </ul> <p>○家庭学習の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習を授業内容と連動させ，学習内容の確実な習得を図る。</li> <li>・家庭学習のてびきを作成し，自主学習などの発展的な学習にも取り組ませる。</li> <li>・保護者への啓発を行う。（学力テスト結果等を通して，課題意識を共有）</li> </ul>

## 7 研究授業のあり方

- ・全員がICTを活用した授業研究を行い、授業改善を図る。
- ・ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、支援対象児童のつまずきの要因を把握、分析し、ICTを活用した支援方法を中心に検討する。
- ・単元構想シートを活用した単元を貫く「問い」が適切であったか検証し、単元全体計画のあり方について検討する。
- ・事前に各学年・ブロック・全体などで指導案検討を行い、より充実した授業にする。
- ・各学年で事前授業が可能な場合は、同じ指導案で授業を行い、改善を図る。
- ・研究授業で得た実践事例を各学年で日々の授業に生かす。
- ・課題を次の研究授業に引継ぎ、改善を図る。

### <授業分析の視点>

- ★本時の目標を達成することができないと予想される児童に対して、ICT等を活用した効果的な手立てを講じていたか。
- ★単元を貫く問いは、適切であったか。
- ★児童の学習意欲を喚起させるような導入の工夫が行われているか。
- ★児童生徒に課題解決の見通しをもたせていたか。（既有の知識や経験の活用等）
- ★目標を達成させるために必要な協働的な学び（ペア・グループ活動の活用）の場を適切に設定しているか。
- ★児童生徒の深い学びを実現するための指導の工夫（集団思考の場）が行われているか。
- ★児童生徒が、自らの見方・考え方の高まりや学習の仕方を振り返ったり、それらを活用できる場面を考えたりする「振り返り」の場が設定されているか。

### 【「課題発見・解決学習」の単元計画を見直す視点】

- 目標に迫る問いを、児童生徒から引き出せているか。
- 児童生徒に課題解決の見通しをもたせているか。（既有の知識や経験、他教科等の既習事項の活用等）
- 児童生徒にとって、課題解決に向かう必然性のある学習活動となっているか。
- 児童生徒の深い学びを実現するための指導の工夫が行われているか。
- 目標に向かって児童生徒の深い学びが実現していく姿を具体的にイメージできているか。
- 児童生徒が、自らの見方・考え方の高まりや学習の仕方を振り返ったり、それらを活用できる場面を考えたりする「振り返り」の場が設定されているか。

## 8 検証計画

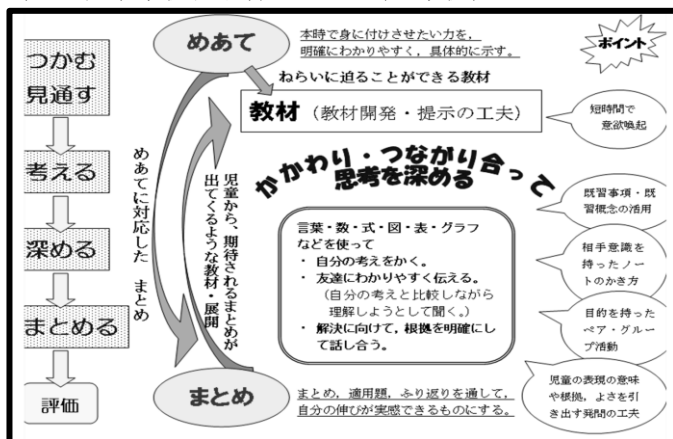
	視点	方法	指標																																																																																																		
1	学力が向上したか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準学力調査及び、学期末評価テストにより検証する。</li> </ul> <p>令和3年度ステップ（到達度）別割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ステップ</th> <th colspan="5">国語</th> <th colspan="5">算数</th> </tr> <tr> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>6.0</td> <td>18.0</td> <td>18.0</td> <td>30.0</td> <td>28.0</td> <td>6.0</td> <td>12.0</td> <td>32.0</td> <td>24.0</td> <td>26.0</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>4.4</td> <td>17.8</td> <td>26.7</td> <td>37.8</td> <td>13.3</td> <td>4.4</td> <td>33.3</td> <td>24.4</td> <td>26.7</td> <td>11.1</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>7.3</td> <td>24.4</td> <td>24.4</td> <td>26.8</td> <td>17.1</td> <td>7.3</td> <td>31.7</td> <td>19.5</td> <td>31.7</td> <td>9.8</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>8.9</td> <td>26.7</td> <td>28.9</td> <td>17.8</td> <td>17.8</td> <td>11.1</td> <td>24.4</td> <td>22.2</td> <td>22.2</td> <td>20.0</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>14.0</td> <td>28.1</td> <td>26.3</td> <td>24.6</td> <td>7.0</td> <td>12.3</td> <td>24.6</td> <td>28.1</td> <td>26.3</td> <td>8.8</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>9.7</td> <td>19.4</td> <td>38.7</td> <td>22.6</td> <td>9.7</td> <td>9.7</td> <td>12.9</td> <td>64.8</td> <td>16.1</td> <td>6.5</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td>8.4</td> <td>22.4</td> <td>27.2</td> <td>26.6</td> <td>15.5</td> <td>8.5</td> <td>23.2</td> <td>30.2</td> <td>24.5</td> <td>13.7</td> </tr> </tbody> </table>	ステップ	国語					算数					1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1年	6.0	18.0	18.0	30.0	28.0	6.0	12.0	32.0	24.0	26.0	2年	4.4	17.8	26.7	37.8	13.3	4.4	33.3	24.4	26.7	11.1	3年	7.3	24.4	24.4	26.8	17.1	7.3	31.7	19.5	31.7	9.8	4年	8.9	26.7	28.9	17.8	17.8	11.1	24.4	22.2	22.2	20.0	5年	14.0	28.1	26.3	24.6	7.0	12.3	24.6	28.1	26.3	8.8	6年	9.7	19.4	38.7	22.6	9.7	9.7	12.9	64.8	16.1	6.5	平均	8.4	22.4	27.2	26.6	15.5	8.5	23.2	30.2	24.5	13.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準学力調査（国語・算数）の結果、ステップ（到達度）2の割合が20%以下になる。</li> <li>・6/10の学級で学期末評価テストの結果が業者指定の期待平均を上回る。</li> </ul>
ステップ	国語					算数																																																																																															
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5																																																																																											
1年	6.0	18.0	18.0	30.0	28.0	6.0	12.0	32.0	24.0	26.0																																																																																											
2年	4.4	17.8	26.7	37.8	13.3	4.4	33.3	24.4	26.7	11.1																																																																																											
3年	7.3	24.4	24.4	26.8	17.1	7.3	31.7	19.5	31.7	9.8																																																																																											
4年	8.9	26.7	28.9	17.8	17.8	11.1	24.4	22.2	22.2	20.0																																																																																											
5年	14.0	28.1	26.3	24.6	7.0	12.3	24.6	28.1	26.3	8.8																																																																																											
6年	9.7	19.4	38.7	22.6	9.7	9.7	12.9	64.8	16.1	6.5																																																																																											
平均	8.4	22.4	27.2	26.6	15.5	8.5	23.2	30.2	24.5	13.7																																																																																											
2	ICTを効果的に活用した授業実践ができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「効果のあった実践事例」として各学年で1例以上まとめる。</li> <li>・教員の研究授業評価アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ICTを活用した実践事例」としてまとめることができる。</li> <li>・研究授業評価アンケートの評価が</li> </ul>																																																																																																		

		トにより、ICTの効果的活用への意識の変容を見とる。	90%以上になる。
3	児童はICTの活用によって、学習に意欲的になっているか	・児童アンケートにより検証する。 「授業では、自分から進んで学習に取り組んでいます。」 「宿題などの間違いを自分で見直している。」	・年間3回の児童アンケートの肯定的評価の平均値が80%以上になる。

9 育成を目指す資質・能力

資質・能力	目指す児童の姿		
	低学年	中学年	高学年
課題解決力	○進んで課題に取り組む。 ○課題解決に向けて、友だちと協力する。	○進んで課題に取り組む、解決のための手順を考える。 ○課題解決に向けて、異なる意見や他者の考えを受け入れながら、協力して活動する。	○進んで課題に取り組む、解決のための手順を考え、行動する。 ○課題解決に向けて、自分らしさを発揮したり他者の考えを尊重したりしながら、協働する。
向上心	○目標に向かってがんばる。 ○何事にもチャレンジする。	○目標を決め、それに向けて努力ができる。 ○失敗を恐れず、よりよくするために何事にもチャレンジする。	○よりよい自分を目指して目標をもち、努力し続ける。 ○自分の将来について考え、夢をもつ。 ○自分を振り返り、よりよい段階に向け、チャレンジする。
自己有用感	○友だち・自分のよいところに気付く。 ○他の人のために仕事ができる。 ○「ありがとう」が言える。	○友だちや自分のよさがわかり、それを表現する。 ○友だちや学級の役に立つことを進んで行う。 ○感謝の気持ちを素直に伝える。	○お互いのよさや個性を認め合った行動をとる。 ○クラスや学校での自分の役割を自覚し、積極的に活動する。 ○当たり前なことにも感謝の気持ちをもち、それを表現する。

10 阿品台中学校区授業モデル（小学校）



## 1 1 研修計画

### ○年間予定

月	日	曜日	研修内容
4	6	水	○研究推進について ・阿東っ子タイム・音声計算・家庭学習について ○学習ガイドブック「学問のすすめ」について ・「学習のきまり」（ノートの使い方・発表の仕方 等） ・学習規律の意識統一 ○ICT活用について ・ロイロノート・タブレットドリル・無料アプリ（ドリル）
	18	月	「学習のきまり」週間 18日（月）～22日（金）
	28	木	研究推進計画について（学びの変革）
5	31	火	指導案検討①（6年）
6	14	火	第1回校内授業研修（6年）
	16	木	指導案検討②（3年）
	20	月	「学習のきまり週間」 21日（月）～25日（金）
	28	火	第2回校内授業研修（3年）
	30	木	第1回3校合同研修会（阿品台中学校）
7			学習アンケート
	21	木	1学期のまとめ ・「実践事例」記入
8	22	月	スキルアップ研修 （ICT・単元構想シート・カリキュラムマネジメント 等）
	23	火	指導案検討③④（2年・4年）
	24	水	第2回3校合同研修会（阿品台西小学校） 講師未定
	26	金	全国学力・学習状況調査学の結果分析
9	5	月	「学習のきまり」週間 5日（月）～9日（金）
	22	木	第3回校内授業研修（2年）
	27	火	第4回校内授業研修（4年）
10	6	木	第3回3校合同研修会（阿品台東小学校）
	25	火	指導案検討⑤（5年）

1 1	8	火	第5回校内授業研修（5年）
	14	月	「学習のきまり」週間 14日（月）～18日（金）
	24	木	<u>◎3校合同公開研究会（阿品台西小学校）</u>
1 2			学習アンケート
	26	月	2学期のまとめ ・「実践事例」記入 指導案検討⑥（1年）
1	16	火	「学習のきまり」週間 16日（火）～20日（金）
	31	火	第6回校内授業研修（1年）
2			学習アンケート
	21	火	今年度取組の振り返り 研究のまとめ ・「実践事例」記入 ・次年度に向けて
	28	木	「学習のきまり」（学問のすすめ）の見直し